

令和元年度第1回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議における第2期つくば市戦略プランに関する意見と対応結果

NO.	内容	意見・質問者(委員)	意見区分	御意見等(主旨)	当日の回答等	対応結果
1	(基本目標に付随する数値目標の中から) 合計特殊出生率	委員	当日意見	合計特殊出生率が伸び悩んでいる原因として、一般的に晩婚化、晩産化による影響が大きいという分析をしているが、本当にそうなのか。社会増が伸びていて、合計特殊出生率が伸びないというのは、駅周辺に子どもの一時預かりの施設がないのではないかと。定住人口を増やしていくことを考えれば、駅前に子育て世代のための施設を充実させていくべきであると思う。	—	主に「Ⅲ-1-①こどもを安心して生み育てられる環境整備」で対応した TX沿線地域は核家族の共働き世帯が転入し、地域との関わり方がわからない家庭が多く、地域も声をかけづらく、地域での子育て中の親を支える力が弱くなってきています。「Ⅲ-1-①こどもを安心して生み育てられる環境整備」における主要プロジェクトとして、「こども・子育て支援の充実」を設定し、転入者が多いつくばエクスプレス沿線地域の方が参加しやすいように、駅や市役所近くに交流の場を設置し、情報提供や相談助言等を行い、地域の中での子育て支援を充実させます。 また、民間保育所や一時預かり施設等についても、保育士不足への対応と合わせて別の個別施策で進めていきます。
2	(基本目標の中から) Ⅱ 結婚し、子どもを産み育て、健康に生活できる環境をつくる	委員	当日意見	市の基本目標には、結婚し、子どもを産み・育てというところで、保育所の待機児童を減らすとかあるが、そこに、働くお母さんに対する目線しかないと思う。昔は、親や周りの人たちに助けをもらいながら子育てをしてきた。自分の住んでいる周りの第三者に手を借りることができれば、育児も家事もより楽にできるし、自分のためのスキルアップもできるのではないかと。地域の繋がりというものを利用して、お母様やお父様たちを支える事ができる場、という視点でも考えていただきたい。	—	基本施策「Ⅲ-1こどもも親も楽しく育つ環境をつくる」で対応した 戦略プランでは、2030年の未来像「充実した子育て環境とともに、創意工夫を引き出す遊びの機会が街中にあふれ、親子が一緒に楽しみながら成長する」状態を目指して、充実した子育て環境や安心して相談できる環境、遊びによって人がつながる身近な交流の場(「たまり場」のような場所)をつくることとしています。No.1への回答のとおり、地域の中での子育て支援を充実させるとともに、誰もが居場所と役割をもち、つながりを持って支えあう場をつくることとしています。

議事(2)第2期つくば市まち・ひと・しごと創生総合戦略(次期戦略プラン)について

NO.	内容	意見・質問者(委員)	意見区分	御意見等(主旨)	担当部回答要旨	対応結果
3	「第2期つくば市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について	委員	事後意見提案	2030年は人口の3分の1が高齢者になると言われています。行政を含む各セクターで担い手不足が顕在化していく人口減少の時代、キーワードの1つは「公民連携」と考えます。 第2期総合戦略に盛り込むべき内容として資料1に「民間と協働する」が位置付けられていますが、ぜひ戦略プランの中で「公民連携」の視点を強調していただければと考えます。 具体的に一つ申しますと、高齢化の進むつくば市の周辺部では今後、「交通弱者」に対する移動手段確保が切実な問題になってくると考えられます。持続可能なコミュニティ交通を考える上で「公民連携」は欠かせない切り口となります。交通事業者に加えNPOなどの住民組織、民間の研究機関等とも協働して、つくばらしい未来型のコミュニティ交通を構築されることを期待しております。 公民連携はすなわち行政への住民参加を意味します。交通弱者への対応だけではなく、周辺部の資源を活用した地域ビジネスの創出等においても、市職員はこれまでに以上に現場に出向き、住民、地域を巻き込んで、活性化に取り組んでいただければ幸いです。	つくば市は、筑波研究学園都市の研究機関や研究者、多様な市民や学生、地元へ根付いた企業に加え、多数の外国人も居住する国際都市として多くの地域・人的資源を有しており、つくばを巣立った若者や学生、仕事や余暇等でつくばを訪れた多くの人が関係人口として全国や世界に広がっていると考えられる。 これらの地域・人的資源をいかし、これまでに大学、研究機関や企業等と連携し、国際戦略総合特区を始めとした様々な取組を推進してきた。 今後も、行政だけでは解決できない課題に対し、地域や市民の力、民間活力等の活用によって答えを導き出し、つくばの可能性を高めていきたい。	新しい未来構想では、目指すまちの姿の1つとして、「I 魅力をみんなで創るまち」を掲げ、戦略プランにおいても、第3章 基本的な考え方 2 推進体制 の中で、(2)地域・市民の力や民間活力等の活用による推進 とし、左のとおりつくば市の強みである地域・人的資源をいかし、行政だけでは、解決できない課題に対し、地域や市民の力、民間活力等の活用により解決を図っていくこととしています。 また、つくばが「つながる」ための視点として、「③社会の資源がつながる」を示し、行政や企業が持つ既存の施設や空間、時間等の資源をいかし、新たなものを単独で建てる・購入するだけではなく、必要なものを市・市民全体でシェアすることとしています。
4	(つくば市未来構想改定中間とりまとめ案(概要版))から 第3章地域特性、第6章まちづくりの理念及び目指すまちの姿	委員	事前意見提案	No.2の意見と合わせて、人間関係を濃密にすることに力を注いでいただけたらと思います。	「しごとと子育ての両方に満足できるまちを目指して」については、基本施策案の「子どもも親も楽しく育つ環境をつくる」で、「若いお母さん、お父さん達が安心して働き、子供を育てながら生活していける環境づくりが大切だと思う」については、「多様性に寛容な社会の推進」で、「若い当事者以外の人とのつながり創出」については、「世代や分野を超えた地域の居場所づくりの拡充」で対応できればと考えている。	未来構想の新しいまちづくりの理念「つながりを力に未来をつくる」では顔と顔が見えるつながりをつくることとしているとともに、戦略プランでは、つくばが「つながる」ため、「①地域やコミュニティがつながる」をはじめとした6つの共通する視点や考え方のもとに整理し、各種施策等を策定しています。 具体的な取組としては、「世代や文化を超えた地域の居場所づくりの拡充」や「地域づくり拠点の形成」、「地域交流を支援する遊び場の提供」、「国際理解講座や文化交流事業」などがありますが、顔と顔が見えるしつかりした関係をつくることを大切にしながら進めていきます。